



炬火を掲げていざ謳う

No.46



# 我らの泉鳥取

2023年6月14日（水）

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

泉鳥取歴史散歩（2）

## 自然居士のイチョウ

— 大阪府指定天然記念物 樹齢480年 —

尾崎駅からバスに乗って和泉鳥取までくる道の途中に、ひときわ大きなイチョウの木があります。阪南市教育委員会では「自然居士のイチョウ」と呼んでいるこのイチョウの木についてご紹介しましょう。

猿楽能（能楽）の大成者である観阿弥かんあみが作ったとされる謡曲に『自然居士（じねんこじ）』というものが  
あります。もともとは実在していた仏教の沙弥しゃみ（半僧半俗の修行者）をモデルに創作された物語です。この自然居士の出生地という伝承があるのが阪南市自然田。自然居士を祀る祠が自然田の集落にあります。この傍らにある樹齢480年を超えるイチョウの木を俗に「自然居士のイチョウ」と呼んでいます。

（あらすじ）

自然居士は、京都雲居寺で七日説法を行っていました。その最終日、貧しい幼い者が現れ、衣を差し出し両親の供養を願います。自然居士も見物人も幼い者の心がけに涙します。しかしこの幼い者は衣を買うために自らを人買いに売って衣を得たもので、その幼い子を救うために自然居士は琵琶湖のほとりまで人買いの乗った船を追いかけて、人買いを諭します。

大津で人買いに追い付いた自然居士は衣を叩き付けますが、人買いにも一旦買った者は返さないという掟があります。自然居士もまた人助けに失敗したら二度と庵室に戻らないという掟があると言いはります。人買いは「言う事をきかないと痛い目に合うぞ」と脅すが「それも捨身の行」と譲らない。「殺すぞ」と脅しても「殺されても舟から下りない」としぶとい。人買いも困り果て、自然居士に舞を舞わせ、それで幼い者を返してやることにする。自然居士は舟を題材にした

中ノ舞、羯鼓かっこの舞を見せ、めでたく幼い者を京都に連れ帰ることに成功しましたとさ。

「自然居士のいちょう」は、樹齢約480年、樹高16m、幹回り1.2mの雌株で、周囲は常に綺麗に清掃され、地元の人たちに大切にされています。

昭和56(1981)年6月1日、大阪府指定天然記念物に指定されました。（阪南市HP）

